

令和2年度 第1回 鶴岡市地域医療を考える市民委員会 (会議概要)

- 日 時 令和2年 7月27日(月) 午後1時30分から3時30分
- 会 場 鶴岡市先端研究産業支援センター レクチャーホール
- 次 第
 - 1 開会
 - 2 市長あいさつ
 - 3 説明・報告・協議
 - 全体テーマ 「コロナ禍における地域医療と市民行動について考える」
 - (1) 経過説明
 - 「新型コロナウイルス感染症対策の経過と対応について」
鶴岡市健康福祉部 地域包括ケア推進室
 - (2) 講 話
 - 「新型コロナウイルスに対応した地域医療体制の現状と今後のあり方」
庄内保健所 所長 蘆野 吉和 氏
 - (3) 協 議
 - ① 話題提供 鶴岡市立庄内病院の対応について
鶴岡市立庄内病院 院長 鈴木 聡
 - ② 新型コロナウイルスに関する意見交換・質疑応答
 - ③ 第2波、第3波に備えて、何を行うべきか、何ができるか考える
 - (4) その他 次回、市民委員会のテーマの検討
 - 4 その他
 - 5 閉会
- 出席委員
瀬尾利加子(委員長)、本間志保子(副委員長)、北風寸美、木村博之、佐藤明美、佐藤和広、土田三香子、原田藤四郎、本間優子、真島正博、水口英俊、秋山美紀(コーディネーター・オンライン参加)、小野俊孝(オブザーバー)、三科武(オブザーバー)、鈴木聡(オブザーバー)
- 市側出席職員
市長 皆川治、健康福祉部長 渡邊健、地域包括ケア推進室長 佐藤清一、地域包括ケア推進室調整専門員 佐藤正、同室調整専門員 帯谷友洋、同室主事 三浦巧、同室保健師 東海林志保、庄内病院事務部長 佐藤光治、同参事(兼)総務課長 今野一夫、同医事課長(兼)地域医療連携室主幹 土田信一、同地域医療連携室室長補佐 富樫清
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 6人
- 審議事項
テーマ:「新型コロナウイルスに関する意見交換・質疑応答」
「第2波、第3波に備えて、何を行うべきか、何ができるか考える」
- 委員発言要旨

委員：今日のお話を聞きし、荘内病院の取り組みに感銘を受けて、安心したところです。鶴岡市民が一人ひとりの行動をメモに取っておくようになれば、クラスターが出たとき追跡するのが早くなるのではないかと思います。

委員：子供たちは目に見えないところで、心身的な不安とかストレスを感じているので、それを学校やカウンセラーとか病院関係者でケアしてくれる方がいればいいと感じる。

委員：蘆野先生のお話をお聞きし、すごく勉強させていただいた。自分が勤務している施設でコロナ感染症の対応の仕方について、まだ不足していると感じた。利用者さんの発熱時、発熱した時のルールや相談支援体制など、スタッフ同士の勉強会をしていかなければならないと思った。

委員：もし自分がコロナ感染症にかかってしまったかもしれないという疑いを持った時に、どう行動したらよいかと言われると、戸惑う部分がある。自分が疑わしい時に、こういう行動をとりましょうという何かチェックシート的なものでもいいし、一覧になっているようなものが手元にあると、今後、自分がうつしていかないために、重篤なリスクを持っている方に感染を広げないためにも、行動をとる指針になるのかと思う。そういう情報発信も今後検討していただけたらと思う。

委員：今日、お話を聞いてコロナによる心のケアを荘内病院で本当にやっていただいているし、学校でもやっていることを知りました。私の住んでいる地域も高齢者がたくさんおり、地域でサロンなどをする時に、マスクをして、手洗いをしっかりし、自己防衛をしたうえで、お互いに話し合える、笑い合える、そういう場を何とか地域で作っていったらなと思っている。

委員：新型コロナウイルス感染症の怖さというものを私たちは知るべきだと思う。もし感染した場合、どのような恐ろしさになるのかという事をもっと知らせるべきではないかなと思う。これは実際に感染した人から、かかった場合の怖さとか、まわりに迷惑をかける等、そういう状況をもっとPRして個人個人がそれぞれ気を付けていくということが、コロナと戦っていく一番の効果的なやり方ではないかと考える。

委員：重度の障害のある方は、マスクが出来ない方も多くいる。そのマスクできない方は路線バスを利用して施設の方に通って来られる方もいますが、交通会社より理解していただいて、バスの方に乗せていただいている。また備品について、マスクはある程度充足しているが、非接触型の体温計が予約をしても手に入らない状況で、グローブ・手袋の方も現在予約中で、ここ1か月ほど手に入らないということで数が少なくなっている現状です。まだまだ、備品については充足していないものもありまして、いろんなところに予約をしつつ、なんとか体制を整えて行こうということで施設の中では頑張っています。利用者さん、職員も研修をしたり、勉強会をしたりしてコロナはこういうものだよと看護師の方から伝えて貰ったり対策を取っているところです。

委員：病院の状況ですが、外来の患者さんが病院に来ること自体を自粛している中で、かなり患者さんが減ってきているというような現状がある。それに伴って入院患者さんも減少してきており、地域全体が4月・5月は入院患者さんも少なくなっているような状況だったのではないかと思う。入院制限、入院の患者さんへの面会制限をしていたので、普段会えていた家族に医療従事者も会えない事での情報収集の不足、入院患者さん自身も、やはりすごくストレスを抱えていましたし、介護施設でもご家族に会えない状況があった中で、入居者の自傷行為として、もので自分の頭を叩いていたりというような、コロナ以外の所でも問題が多く発生していた時期がありました。自粛期間の問題を解決していくには、蘆野先生からもお話がありましたけれども、地域でどのようにこの問題を解決していくのかというのが、すごく大事になると感じてお話を聞かせていただいた。

委員：今日は非常に日本に生まれて良かった、格差のない日本に生まれて良かったと思っている。恐ろしい病気が出てきたもので、先生のお話しの中で重症化のリスク要因の「65歳以上の高齢者」、「慢性呼吸疾患」、「慢性腎臓病」、の3つとも私は該当している。1日おきに人工透析に通い、それからステロイド飲んで喘息の治療をしている。感染したら重症化すると感じながら、現在、幸いなことに感染していません。本当に、良い日本に生まれたなと思い、逆に幸せを感じています。心強い国です。

委員：今回のコロナで情報ということが非常に重要と感じている。県内で出ました、鶴岡市で出ました、という情報が夕方発表になって、どういうことを調べようと思っても情報が出てこない。1日後ぐらいに少し情報が出て来るということで、私たちの仕事からすると、やはりその時点でどういう地域の人に関係があるのかということが気になるので、情報ということはデマを防ぐということで市の方からでも正しい情報をリアルタイムで出していただけられないものかということが、非常に今回思っている。精神的にご家族も本人も苦勞が絶えないというのが、この間非常に見受けられた。

○次回、市民委員会のテーマ

第4回の開催は地域医療の市民への理解と普及、市民への積極的な情報発信と医療ニーズの把握ということをテーマに開催する予定。